香教連

香川県教職員連盟機関誌
発行所：香川県教職員連盟
発行者：北村　顕吾

〒760-0004
高松市西宝町２丁目６番４０号
香川県教育会館６０２号
TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

毎月10日発行　定価１部50円
（年間1,000円　送料とも）
会員の購読費は会費の中に含む

香教連は、結成四十六年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

新しい時代に対応していくために 緊急事態時でも「学びを止めない」ために

六月二十六日（金）香川県教育会館六階会議室において、平井卓也前ＩＴ・科学技術担当大臣と北村顕吾香教連委員長による意見交換会を行った。主に「ＧＩＧＡスクール構想」と「教職員の働き方改革」について意見交換をした。

その中で、平井前ＩＴ・科学技術担当大臣は、次世代における教育の在り方に向けて、ＧＩＧＡスクール構想前倒しと家庭のインターネット環境の整備を共に確実に実施していく必要性等を盛り込んだ「デジタル田園都市国家構想」をまとめ、内閣や各関係機関へ申し入れをしてきたことを話してくださった。元となった「田園都市国家構想」は、郷土の大先輩でもある香川県出身の大平正芳元首相が、首相在任時に提唱されたものである。首都圏を除く全国ほとんどの地域において、ネットワーク環境や教育機関側のスキル等の格差が浮き彫りになったことから、今後、今回のような緊急事態宣言による公教育の休校状態になった場合や住んでいる場所等にとらわれず、すべての子どもたちが混乱することなく安心して質の高い教育が持続して受けられる環境にしていくことが必要不可欠であることを述べられた。また、教育のＤＸ化を推進していくことで、教職員の働き方改革にも大きくつながってくる可能性があることや、今後の教育の新常態（ニューノーマル）は、オンライン授業とオフライン授業のハイブリッド型となるべきであることもおっしゃられた。

北村委員長からは、今回の新型コロナウイルス感染症拡大における状況から「ＧＩＧＡスクール構想の早期実現に向けて、確実に環境整備を図ること」「学校事務の負担を軽減し、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、ＩＣＴによる業務の効率化を図るとともに、指導要録の電子化等を含め、県下で共通化された業務に取り組むことができるようにすることや、事務機器の充実も促進するよう、市町教育委員会と連携して早急に環境整備を図ること」等を重点項目として県に対して要望したことを伝えたとともに、確実な環境整備の実現と国や地方の教育行政への予算拡充及び予算不足の解消についてもお願いした。

国の動向や今後の香川の教育、日本の教育の在り方について意見交換することができ、貴重な時間となった。

この場をお借りして、お忙しいところ時間を割いてお越しいただき、また長時間にわたって意見交換させていただきましたこと、平井卓也前ＩＴ・科学技術担当大臣に深く感謝申し上げます。

国会へ「二次補正における教育施策推進の予算確保及び教育制度に関する要望」

五月二十一日(木)～五月二十六日（火）、全日教連は、国会議員の方々に対して、「二次補正における教育施策推進の予算確保及び教育制度に関する要望」について、第三次中央要請行動を行った。香教連からは、原井和彦副委員長（全日教連事務局次長）が、各国会議員の方々へ要望に参った。

文部科学省から発出された「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における『学びの保障』の方向性について（通知）」の取り組みを実現するための教職員等の人的配置の拡充や、家庭での学びを持続させるためのＰＣやＷｉ－Ｆｉ等の教育環境の整備、また長期休業短縮により利用が見込まれる空調設備の特別教室・体育館への設置、また土曜授業等で教員に多くの負担がかかることを鑑み、教職調整額の拡充や手当の新設等の予算要望をした。

また、九月入学に関しては、議論の深まっていない現状では反対であるとの立場から、多角的な観点から慎重に協議するように要望した。

温故知新

今回は「失敗への恐怖心の克服」です。

チャレンジできないのは失敗への恐怖心があるからです。もっと突っ込むと、自尊心が傷付けられる恐怖があるからです。ですので、恐怖を感じさせなくするのがポイントです。失敗を成功へのステップととらえるようになれば良いのです。理想を言うと、失敗しても「得した」と思えれば良いのです。チャレンジして失敗した子どもが「損した」と思うようではいけません。子どもが失敗をどちらに捉えるかは「学習」の結果です。これは、担任の普段の反応一つにかかっているといえます。

失敗の恐怖心をどう軽減していくのか。授業の場面を例に考えましょう。

ある子どもを指名します。教師の求める答えとは違う答えを言う場合があります。この時の教師の反応が大切です。がっかりした反応をしていませんか。

正答を求める「答え合わせ」をするなら、さっさと教師が教えてしまえばよいことです。時間の無駄です。そうではなくて「面白い誤答」「価値ある誤答」をこそ求めるのです。（基本的に、子どもが真剣に考えて答えた誤答なら、何かしらの価値があると判断して良いでしょう。）

大事なことは、いかに失敗に価値付けをできるかです。サッカーやバスケットでシュートを外した時の声かけはいつでも「ナイスシュート！」。入ったかどうかは結果論です。シュートを打たなければ得点に結びつかない訳ですから、打ったこと自体がもう素晴らしいと考えることが大切ですね。

誤答も「面白い考えだね！」とか「それは、良い間違い！」と断定します。良い間違いとは、例えば算数なら、テストでたくさんの子どもがやりそうな間違いのことです。それを授業中に示してくれることは、非常に価値があります。それにより、他の子どもが今後同じような失敗をするのを防げるのです。「○○さんのおかげで、すごく勉強が深まったね。このままいったら全員危なかったね。ありがとう！」とクラス全体に共有するのです。

正答を言うのは、教師がいるのだから誰でもできます。大した価値はありません。良い間違いを示してくれる子どもは、一番のヒーローであるべきです。そういう風土、空間づくりをして、初めてチャンスにチャレンジする子どもになっていくように思います。

結局は、教える側の教師が、風土、空間をつくる責任者なのです。その責任の重さを自覚し、子どもたちに反応していく必要があるのではないでしょうか。（顕）